

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300965
法人名	医療法人財団 青仁会
事業所名	グループホーム南寿の里「丘の家」
所在地	青森県八戸市大字田面木字赤坂25番地2
自己評価作成日	令和6年7月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和6年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた環境で、家庭的な雰囲気の中、個人が生き生きと生活を継続できるように支援している。ホーム内行事では、四季を感じていただくような行事を心がけており、今時期は市商工会議所の「市民七夕飾り付け」の催しに参加し、入居者様と共に七夕飾りを作成して展示をする予定である。また、春先は小さな畑ですが「南寿農園」と称して夏野菜の苗植え行事を実施し、入居者様と共に、生育を楽しみながら水やりを行っている。入居者様との関わりの中では、若かりし頃に体感した記憶を思い出していただくよう、話題を工夫して対応している。地域交流では認定こども園との交流を通じた世代間の交流がみられ、「生きがい・やりがい」を見出している。また、毎月のお料理クラブでは、入居者様に献立を考えていただき、一緒に調理をすることで食欲の促進にもつながり、入居者様のできる能力を引き出すことができている。その他、大きなイベント、法人行事「ふれあい秋祭り」では、地域の方々のステージ発表を見学したり、屋台をめぐって買い物をする等、気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市内が見渡せる高台に立地し、玄関前の庭で家庭菜園が楽しめる、自然豊かな環境にある。広い敷地内には病院や老人福祉施設、通所リハビリテーション等が併設されており、災害時等の協力体制を整えている。職員は週1回のミーティングや苑内研修等で、様々なテーマの学習の機会を持ち、理解を深めながらケアに反映させている。また、コロナ禍では様々な交流を中止せざるを得なかったが、今年度からは少しずつ再開しており、近くの保育園児と七夕飾りを作ったり、「ふれあい秋祭り」で地域の方と交流したり、町内会の行事に介護予防体操の紹介を予定し、ボランティアの受け入れも再開している。職員は、利用者が地域の中で、その人らしく過ごせるようにお手伝いすることをモットーとして、利用者や家族の思いを大切にしながら、笑顔で過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を担っている (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど担っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた事業計画・目標を立て、職員間で話し合いをして共有している。理念やモットーは職員室やフロア内の目の届く所に設置し、意識付けをしている。	法人の理念の他に、利用者が一日一日を大切にして笑顔で過ごせるように、また、地域の中でその人らしい生活を送れるようにお手伝いすることをホームのモットーとして掲げている。理念等は全職員で共有し、日々のケアや介護計画の中に反映させて支援に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へホーム内行事に参加していただけるよう、事前に社会福祉協議会や運営推進会議を通して募集をしている。令和2年度以降は外部からの受け入れは中止していたが、令和6年度からは徐々に受け入れをしている。町内会や老人クラブの催しに職員が参加し、地域の方々にホームの取り組みを理解していただけるように努めている。	コロナ禍では様々な交流を中止せざるを得なかったが、今年度からは少しずつ再開している。近隣の保育園児と七夕飾りを作ったり、町内会の行事に介護予防体操の紹介を予定したり、ボランティアの受け入れを再開する等、利用者が地域とつながりながら暮らし続けることができるように支援している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の理解や予防方法等を伝え、地域に向けた啓発活動を行っている。また、町内会の催しや老人クラブに参加し、介護予防体操を行っている。※令和2年度以降は各催しを中止としているが、令和6年度からは取り組む予定。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事前に会議の趣旨や目的を説明し、実施している。会議では出席者に資料を配布し、利用状況や行事の報告をしている。参加者の意見を汲み取りながら、施設運営に活かしている。	運営推進会議には町内会長や民生委員、保育園代表、市担当者の他、多くの家族が参加している。会議では、ホームの現状報告の他、認知症・熱中症・感染症等の勉強会を企画して意見交換をしおり、サービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援センターには入居者様の相談や実情を伝え、助言をいただいている。市の担当者へは随時、制度等について確認事項や報告を行っている。また、法人内の施設とは空床時の連絡や確認作業をして、連携を図っている。	高齢者支援センターに困難事例の対応について相談し、アドバイスや情報をいただいている。また、行政にはホームの実情やケアサービスの取り組み等を積極的に伝えながら、協力関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束廃止に向けた取り組みについて周知徹底を図り、身体拘束廃止の指針を作成して共有している。法人内の委員会の委員として参加し、身体拘束の勉強会やミーティングを繰り返すことで、意識付けをしている。玄関の施錠については時間を決めて行っている。	身体拘束適正化のための指針とマニュアルを作成し、勉強会やミーティングでも確認しながら、全職員が身体拘束の内容や弊害を正しく理解するように努めている。また、やむを得ない場合に備え、家族の同意や経過観察を記録に残す体制を整えているが、ホーム全体で身体拘束は行わない姿勢で取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設や法人内で勉強会を開催し、職員全体が虐待防止を意識できるよう、資質向上に努めている。また、事業所内に高齢者虐待防止のポスターを掲示し、職員のみならず、外部のご家族様や関係者の方が虐待に関して発言しやすい、風通しの良い施設作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・施設内で権利擁護やその事業、成年後見制度について勉強会を開催し、職員の理解・知識を深めている。職員間で、権利擁護に関する知識からの対応スキルを培えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書と併せて十分に説明を行い、また、個人情報の方針や看取りを行っていないことについて説明も行い、納得していただいた上で、同意やサインをいただいている。ご家族様の不安や疑問点を伺い、その都度対応している。退居時、ご家族様や入居者様の意向をできる限り踏まえ、その方に関わる全ての関係機関で検討し、ご家族様や本人様に不安がないように進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を受け付ける御意見箱を設置し、苦情対応職員を設けている。法人内の委員会でも年2回、ご家族様へ満足度アンケートを実施し、苦情等の集計を行い、対応している。普段から施設職員に対して要望や苦情を話し、相談して良かったと満足感や安心感を得られるよう、毎日の申し送りを活用して、入居者様やご家族様の意見の情報共有と対応を話し合っている。また、表情等から入居者様の不満や要望等を感じ取れるよう、普段から心がけて業務に当たっている。	日頃から利用者とコミュニケーションを多く取り、会話や表情、行動からも利用者の要望を把握するようにし、遠慮なく意見を出せる関係作りに努めている。家族の面会の際は利用者の現状を伝え、要望を聞いている。また、運営推進会議には多数の家族の参加があり、意見や疑問を出すことができる他、毎月のホーム便りでも利用者の健康状態や暮らしぶりを伝え、家族が意見を出せるきっかけとなるようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を交え、週1回、スタッフミーティングを行い、意見や提案を確認している。現場の意見をまとめ、法人内メールにて執行管理者に意見を伝えている。	週1回、ミーティングで意見交換をしたり、年2回の管理者との面接で職員の目標や希望を確認する等、職員が意見や要望を話す機会が確保されている。また、ミーティングではケア内容や業務連絡、研修内容報告等が、短時間に効率良く行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、管理者と職員で面接を行って目標設定を行い、啓蒙活動について話し合っている。また、異動の希望があった場合は、上司に報告する体制を整えている。年2回の職員健診の実施により、健康管理の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、苑内研修として、職員で課題を立てて勉強会を実施している。資料等は一から作り上げ、職員間で勉強をしている。外部から研修案内があった際は案内を掲示し、お知らせしている。職員から希望があれば、研修の受講について上司に報告し、受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム協議会の懇親会に参加し、他事業所の職員と交流する機会があり、サービスの質向上等の意見交換、必要な知識や情報の交換を行っている。また、法人内の施設間で交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当法人施設からの入居の場合は、本人様やご家族様から要望や抱えている不安等を伺う他、施設職員からも普段の関わりについて情報を得て、プランに取り入れている。また、自宅で過ごされている方は面談を行い、ご家族様やケアマネジャーから希望や要望を伺い、プランに反映をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお会いし、抱えている問題や意向・希望等を伺っている。入居後の生活に何が必要か、事前に話し合い、本人様やご家族様の状況を把握して、可能な限り柔軟な対応ができるように心がけ、ご家族様が理解した上でサービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、入居者様本人の希望・要望を聞き、実行できるよう、職員間で検討を行い、可能な限りニーズに応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お料理クラブを月1回行い、その際、入居者様ができる範囲内で調理に携わっており、入居者様より食材の切り方や味付けの仕方を教わり、職員が入居者様から学ぶ機会を得ている。日常生活の中でも、洗濯の畳み方や食事の盛り付け方等、教わる部分が多くある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態変化を見逃さず、少しの変化でもご家族様へ連絡を取り、報告を行っている。ご家族様と協力し、本人様の病状回復に向けて密な関係を築いている。また、面会時には最近の出来事等を伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事では入居者様の馴染みの場所への計画をしたり、昔の友人や親戚の面会も積極的に受け入れている。また、昔の写真や思い出の品を本人様の居室に置き、いつでも見られるように工夫している。	入居時のアセスメントや日頃の利用者との関わり、家族との会話から、利用者の馴染みの関係を把握している。職員は親戚や知人の来訪(玄関まで)や電話の取り次ぎ等、これまで大切にしてきた関わりを継続できるように支援している。また、お墓参り等は家族の協力を得ながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間で、身体レベルや認知症の程度によってはトラブルとなるケースもあるため、介入が必要な方には円滑に交流ができるように援助し、一人ひとりが孤立せず、入居者様同士が支え合えるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の入居者様の状態に応じて、今後、再入居の可能性がある場合や、本人様やご家族様が入居を希望する場合等、必要に応じて、ご家族様や関係機関との情報交換、支援を行っている。また、グループホームでの入居継続が厳しい場合は、新たなサービス機関の紹介をしつつ、ご家族様が対応に苦慮しないよう、各関係機関との連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、十分に把握できない場合は、ご家族様や関係者から情報収集を行い、意向の把握に努めている。	入居時のアセスメントや日頃の会話の中から、利用者の思いや意向を引き出している。他、面会や受診の付き添いの際も、家族から情報を得ている。把握が困難な場合は本人本位に検討するようしており、情報は全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や各関係機関から、本人様の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用等の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通じて、日常生活や入居者様の心身状態、認知症状等、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りでは少しの変化でも気づいた事を報告し、職員間で情報共有をしている。入居者様の受け持ちの担当職員以外からの情報や、本人様、ご家族様からの情報、主治医からの治療方針等を踏まえ、より良いニーズを収集し、多角的な視点から課題の抽出を行い、介護計画(ケアプラン)に反映している。	利用者がその人らしく暮らし続けることができるよう、利用者や家族等の意見・要望を十分に聞き、職員間で話し合い、問題提起や解決策を記載した具体的な介護計画を作成している。また、モニタリングをして、利用者の状態や希望に変化がないか観察し、利用者の現状に合った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過録記載は1日の過ごし方や困り事、役割、身体・精神面の観察、ケアプランの実践や結果、課題の把握、地域活動での様子等を記入し、職員間で情報共有をしながら、自立した生活を営めるよう、介護計画を立案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の依頼や受診の付き添い時、また、ケアプランの開示等の電話連絡の際に、日常の様子を報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和6年からは外部の与交流を徐々に受け入れていく予定であり、近隣こども園との交流が主となっている。また、運営推進会議では地域の方々から意見をいただきながら、適切な施設運営に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や入居者様本人から事前に受療状況を確認している。入居前からのかかりつけ医や、希望時には同法人の医療機関を受診していただいている。通院時の同行はご家族様へ協力を仰ぎ、受診の際は「情報提供用紙」を活用して、医療機関と連携を図っている。	利用者や家族が希望する医療機関を受診できるように支援している他、法人内病院の認知症専門医を受診している方も多い。受診には家族が付き添い、「情報提供用紙」を活用して、受診結果を共有している。また、定期的に法人内の看護師による健康管理等を行い、利用者や家族が安心できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員を兼務にて配置しており、定期的に入居者様の状態把握や体調管理を行っている。定期受診前後や状態の変化時は密に連絡を取り、指示や助言を仰いでいる。その際、看護師が兼務でも業務が円滑にできるよう、電話連絡以外に法人内のメールで報告を行っている。また、緊急時には24時間連絡がとれる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が受診をする際には「情報提供用紙」を作成している他、入院時には介護サマリーを作成し、提供している。入院中、必要時には職員が面会し、主治医やご家族様、関係機関職員等と早期退院に向けた話し合いを実施している。また、入院中の医療機関と協力し、退院前にご家族様と面談して、思いや不安を解消できるように対応している。主治医から退院に向けた説明がある際は、できるだけ施設職員も参加し、ご家族様、入居者様が安心した施設生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医師と連携し、状態変化に応じた対応、受診時の情報をご家族様に提供している。入居契約時、グループホームで可能なケアやサービスについて、ご家族様に重度化の指針を含む説明をし、同意をいただいている。また、重度化・終末期にグループホーム内では困難なケア、サービスをご家族様や入居者様が希望する場合、他施設や医療機関への連絡調整を行っている。	重度化や終末期の対応は行っていないことを、入居時に利用者や家族に説明している。できる限りホームで過ごしてもらい、経口摂取が困難な場合等の状態変化に応じて、利用者や家族、主治医と話し合いを持ち、入院や他施設への住み替え等の支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人内での研修にて、応急手当や初期対応について学んでいる。また、施設内でも緊急時対応マニュアルを作成し、応急手当や初期対応について、定期的実践するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人防災委員会や防火管理者が主体となり、年2回、夜間・日中想定避難訓練を実施し、全職員が対応について学ぶ機会を設けている。また、近隣施設への協力依頼等も検討し、災害対策を取っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、法人の防災委員会や防火管理者が主体となり、マニュアル作成や計画・評価を含めて実践している。また、災害時に備えて、法人施設職員の協力体制を整えている他、非常食や衛生用品、ストーブ、発電機等を、すぐ近くのコンテナに用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの個人情報を把握し、それぞれの希望に沿った介護を行い、介助の際の声かけや対応等は、プライバシーを損なわない声かけを行っている。	接遇について定期的に学習し、利用者の言動を否定したり、拒否することなく、モットーにある「その人らしく、笑顔で過ごせるように」を基にした声かけや対応に努めている。また、プライバシーや個人情報の取り扱いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の希望や思いを伝えられる環境作りを行い、意思表示を十分に行えない方に対しては、表情や行動から、その入居者様が何を望んでいるかを読み取り、選択肢を提示して自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意思を尊重し、その人の希望に合わせたペースで支援をして、住み慣れた環境でその人らしい生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望を尊重し、気温や状態に合わせてさり気なくサポートしており、身だしなみを整えて、好みの格好ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者から配達されている。入居者様が食事を楽しむことができよう、月1回、お料理クラブを実施している。その際、入居者様から嗜好を確認し、季節の食材を取り入れたメニューを考えて提供している。また、お料理クラブでは、入居者様と職員と一緒に取り組めるようにしている。	献立の中の苦手な物は、その都度代替品で対応している他、利用者それぞれのペースで、ゆったりと食事が楽しめるように支援している。ホームでは月1回、「お料理クラブ」と称した機会を設け、利用者からリクエストを聞き、旬の食材を取り入れながら、利用者と職員と一緒に調理や盛り付け、後片付けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態を把握し、それぞれの食事量や水分量を観察している。職員間で脱水症についての勉強会を実施し、脱水症状や夏場の健康管理について、情報共有しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後の口腔ケアを実施しており、個々の状態に合わせて職員が支援している。異常があれば歯科往診の検討をご家族様へ相談し、必要時には往診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声がけだけではなく、個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせた排泄援助を行っている。	利用者の排泄パターンを把握し、尿意や便意の排泄感覚を大切にしながら、個々のタイミングで声がけをしている。誘導時は静かに声がけしている他、利用者の状態に合わせ、排泄用品の使用の見直しを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表に排泄状況を記入する欄を設け、毎日観察している。水分を十分に摂っていただけるよう、その方の希望や嗜好、嚥下状態に合わせて飲み物を提供している。また、適度な運動も行えるよう、散歩や体操も無理のない範囲で促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日時は決めず、入居者様の希望に合わせて調整している。入浴時間も制限はしていないが、その方の状態に合わせて、身体に負担がかからないよう、入浴時間をみて体調確認の声がけを行っている。	お湯の温度や時間等、利用者の希望を聞きながら、週2回のペースで入浴できるように支援している。また、1日2～3人程度の入浴とし、利用者の負担感や安全面に配慮しながら、可能な限り、ゆっくりと入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーションに体操や散歩を取り入れている他、家事活動等を行い、適度に身体を動かすことを促している。照明や物音にも十分に配慮し、安心して休んでいただける環境作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの医師からの薬剤情報に目を通し、申し送りやスタッフミーティングの際に、注意すべき内容の周知徹底を図っている。また、薬剤の情報で不明な点は、薬剤師や主治医、外来看護師に伺い、解決している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動(食器拭き、布巾畳み、洗濯干し、お料理)や入居者様個々の生活歴から、本人様が今できる事を支援している。計算ドリルや漢字の練習等の頭を使う事や、園芸、体操、歌等、身体を使う事等、日々、楽しみや気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の状態や気分に合わせ、施設周辺の散歩に行っている。気軽に出かけられるよう、希望に沿った支援をしている。	コロナ禍を経て、今年度からは年間行事を基に、外出する機会を増やしている。7月には、保育園児と作った七夕飾りが市中心街の観光施設に展示され、バスで出かけている。また、広い敷地内を散歩したり、ホーム前の畑の花や野菜を手入れする等、利用者の気分転換や楽しみにつながる機会を設けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは金銭管理は行っていないため、行事や床屋等、金銭を使用する際は、その都度ご家族様へ連絡し、必要な額をご持参いただいている。支払いについては、本人様が支払いできるように支援し、お金を使うという社会性の維持ができるよう、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には他者様に迷惑がかからない時間帯であれば、自由に電話をかけられ、プライバシー保護のため、職員室内でご使用いただいている。手紙や年賀状は自筆でお出しできるように支援し、自署できない方は職員が代筆支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には入居者様が作成した季節の工作や飾り付けをし、ご家族様が来訪された時に楽しんでいただいている。また、食堂の他にソファを設置することで、リラックスできる空間を設けている。また、季節毎に室内温度や湿度に気を配り、ホーム内に温湿度計を設置して、日々、こまめにチェックし、入居者様の体調管理に努めている。	廊下やホールには、利用者と職員が作成した笹飾りや紫陽花の花飾り等があり、季節を感じられるように工夫している。大きな窓から陽光が入る廊下にソファを置き、利用者が寛げるようにしている。また、定期的に温・湿度を確認している他、物音や明るさにも配慮し、居心地の良い環境作りに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に通じるアルコーブにも寛げるスペースを設け、入居者様が休みたい時や、入居者様同士で話をしたい時等のためにセッティングしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設の備え付けであるが、寝具やタンス、テーブル、椅子等は入居者様の馴染みの物を個々に準備していただいている。配置も入居者様やご家族様と一緒に、居心地良く過ごすことができる空間作りに努めている。	できるだけ馴染みの物を持って来ていただくように働きかけている。タンスやチェスト、テーブル、イス等の使い慣れた物や、位牌や家族写真等の思い出のある物を置く等、その人らしい居室で安心して暮らせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の残存機能や適応能力に応じて、居室の場所に配慮している。また、廊下左右に手摺りを付け、歩行がスムーズに行えるように配慮している。施設物品の高さや配置についても、必要物品は自力で取り出しが行える配置にするように努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0270300965
法人名	医療法人財団 青仁会
事業所名	グループホーム南寿の里「雲の家」
所在地	青森県八戸市大字田面木字赤坂25番地2
自己評価作成日	令和6年7月3日
評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号
訪問調査日	令和6年8月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた環境で、家庭的な雰囲気の中、個人が生き生きと生活を継続できるように支援している。ホーム内行事では、四季を感じていただくような行事を心がけており、今時期は市商工会議所の「市民七夕飾り付け」の催しに参加し、入居者様と共に七夕飾りを作成して展示をする予定である。また、春先は小さな畑ですが「南寿農園」と称して夏野菜の苗植え行事を実施し、入居者様と共に、生育を楽しみながら水やりを行っている。入居者様との関わりの中では、若かりし頃に体感した記憶を思い出していただくよう、話題を工夫して対応している。地域交流では認定こども園との交流を通じた世代間の交流がみられ、「生きがい・やりがい」を見出している。また、毎月のお料理クラブでは、入居者様に献立を考えていただき、一緒に調理をすることで食欲の促進にもつながり、入居者様のできる能力を引き出すことができています。その他、大きなイベント、法人行事「ふれあい秋祭り」では、地域の方々のステージ発表を見学したり、屋台をめぐって買い物をする等、気分転換を図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を損んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんど損んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と ☐ 2. 家族の2/3くらいと ☐ 3. 家族の1/3くらいと ☐ 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある ☐ 2. 数日に1回程度ある ☐ 3. たまにある ☐ 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように ☐ 2. 数日に1回程度 ☐ 3. たまに ☐ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている ☐ 2. 少しずつ増えている ☐ 3. あまり増えていない ☐ 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が ☐ 2. 職員の2/3くらいが ☐ 3. 職員の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が ☐ 2. 家族等の2/3くらいが ☐ 3. 家族等の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が ☐ 2. 利用者の2/3くらいが ☐ 3. 利用者の1/3くらいが ☐ 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に基づいた事業計画・目標を立て、職員間で話し合いをして共有している。理念やモットーは職員室やフロア内の目の届く所に設置し、意識付けをしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々へホーム内行事に参加していただけるよう、事前に社会福祉協議会や運営推進会議を通して募集をしている。令和2年度以降は外部からの受け入れは中止していたが、令和6年度からは徐々に受け入れをしている。町内会や老人クラブの催しに職員が参加し、地域の方々にホームの取り組みを理解していただけるように努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議では認知症の理解や予防方法等を伝え、地域に向けた啓発活動を行っている。また、町内会の催しや老人クラブに参加し、介護予防体操を行っている。※令和2年度以降は各催しを中止としているが、令和6年度からは取り組む予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事前に会議の趣旨や目的を説明し、実施している。会議では出席者に資料を配布し、利用状況や行事の報告をしている。参加者の意見を汲み取りながら、施設運営に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者支援センターには入居者様の相談や実情を伝え、助言をいただいている。市の担当者へは随時、制度等について確認事項や報告を行っている。また、法人内の施設とは空床時の連絡や確認作業をして、連携を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員に身体拘束廃止に向けた取り組みについて周知徹底を図り、身体拘束廃止の指針を作成して共有している。法人内の委員会の委員として参加し、身体拘束の勉強会やミーティングを繰り返すことで、意識付けをしている。玄関の施錠については時間を決めて行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設や法人内で勉強会を開催し、職員全体が虐待防止を意識できるよう、資質向上に努めている。また、事業所内に高齢者虐待防止のポスターを掲示し、職員のみならず、外部のご家族様や関係者の方が虐待に関して発言しやすい、風通しの良い施設作りを目指している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内・施設内で権利擁護やその事業、成年後見制度について勉強会を開催し、職員の理解・知識を深めている。職員間で、権利擁護に関する知識からの対応スキルを培えるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項説明書と併せて十分に説明を行い、また、個人情報の方針や看取りを行っていないことについて説明も行い、納得していただいた上で、同意やサインをいただいている。ご家族様の不安や疑問点を伺い、その都度対応している。退居時、ご家族様や入居者様の意向をできる限り踏まえ、その方に関わる全ての関係機関で検討し、ご家族様や本人様に不安がないように進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や要望を受け付ける御意見箱を設置し、苦情対応職員を設けている。法人内の委員会で年2回、ご家族様へ満足度アンケートを実施し、苦情等の集計を行い、対応している。普段から施設職員に対して要望や苦情を話し、相談して良かったと満足感や安心感を得られるよう、毎日の申し送りを活用して、入居者様やご家族様の意見の情報共有と対応を話し合っている。また、表情等から入居者様の不満や要望等を感じ取れるよう、普段から心がけて業務に当たっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者を交え、週1回、スタッフミーティングを行い、意見や提案を確認している。現場の意見をまとめ、法人内メールにて執行管理者に意見を伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、管理者と職員で面接を行って目標設定を行い、啓蒙活動について話し合っている。また、異動の希望があった場合は、上司に報告する体制を整えている。年2回の職員健診の実施により、健康管理の支援をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、苑内研修として、職員で課題を立てて勉強会を実施している。資料等は一から作り上げ、職員間で勉強をしている。外部から研修案内があった際は案内を掲示し、お知らせしている。職員から希望があれば、研修の受講について上司に報告し、受講させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度はグループホーム協議会の懇親会に参加し、他事業所の職員と交流する機会があり、サービスの質向上等の意見交換、必要な知識や情報の交換を行っている。また、法人内の施設間で交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当法人施設からの入居の場合は、本人様やご家族様から要望や抱えている不安等を伺う他、施設職員からも普段の関わりについて情報を得て、プランに取り入れている。また、自宅で過ごされている方は面談を行い、ご家族様やケアマネジャーから希望や要望を伺い、プランに反映をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様とお会いし、抱えている問題や意向・希望等を伺っている。入居後の生活に何が必要か、事前に話し合い、本人様やご家族様の状況を把握して、可能な限り柔軟な対応ができるように心がけ、ご家族様が理解した上でサービスに繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様、入居者様本人の希望・要望を聞き、実行できるよう、職員間で検討を行い、可能な限りニーズに応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お料理クラブを月1回行い、その際、入居者様ができる範囲内で調理に携わっており、入居者様より食材の切り方や味付けの仕方を教わり、職員が入居者様から学ぶ機会を得ている。日常生活の中でも、洗濯の畳み方や食事の盛り付け方等、教わる部分が多くある。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の状態変化を見逃さず、少しの変化でもご家族様へ連絡を取り、報告を行っている。ご家族様と協力し、本人様の病状回復に向けて密な関係を築いている。また、面会時には最近の出来事等を伝えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出行事では入居者様の馴染みの場所への計画をしたり、昔の友人や親戚の面会も積極的に受け入れている。また、昔の写真や思い出の品を本人様の居室に置き、いつでも見られるように工夫している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様間で、身体レベルや認知症の程度によってはトラブルとなるケースもあるため、介入が必要な方には円滑に交流ができるように援助し、一人ひとりが孤立せず、入居者様同士が支え合えるよう、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時の入居者様の状態に応じて、今後、再入居の可能性がある場合や、本人様やご家族様が入居を希望する場合等、必要に応じて、ご家族様や関係機関との情報交換、支援を行っている。また、グループホームでの入居継続が厳しい場合は、新たなサービス機関の紹介をしつつ、ご家族様が対応に苦慮しないよう、各関係機関との連携に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。また、十分に把握できない場合は、ご家族様や関係者から情報収集を行い、意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や各関係機関から、本人様の生活歴や生活環境、これまでのサービス利用等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を通じて、日常生活や入居者様の心身状態、認知症状等、現状の把握に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りでは少しの変化でも気づいた事を報告し、職員間で情報共有をしている。入居者様の受け持ちの担当職員以外からの情報や、本人様、ご家族様からの情報、主治医からの治療方針等を踏まえ、より良いニーズを収集し、多角的な視点から課題の抽出を行い、介護計画(ケアプラン)に反映している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の経過録記載は1日の過ごし方や困り事、役割、身体・精神面の観察、ケアプランの実践や結果、課題の把握、地域活動での様子等を記入し、職員間で情報共有をしながら、自立した生活を営めるよう、介護計画を立案している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品の依頼や受診の付き添い時、また、ケアプランの開示等の電話連絡の際に、日常の様子を報告している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	令和6年からは外部のと交流を徐々に受け入れていく予定であり、近隣こども園との交流が主となっている。また、運営推進会議では地域の方々から意見をいただきながら、適切な施設運営に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様や入居者様本人から事前に受療状況を確認している。入居前からのかかりつけ医や、希望時には同法人の医療機関を受診していただいている。通院時の同行はご家族様へ協力を仰ぎ、受診の際は「情報提供用紙」を活用して、医療機関と連携を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護職員を兼務にて配置しており、定期的に入居者様の状態把握や体調管理を行っている。定期受診前後や状態の変化時は密に連絡を取り、指示や助言を仰いでいる。その際、看護師が兼務でも業務が円滑にできるよう、電話連絡以外に法人内のメールで報告を行っている。また、緊急時には24時間連絡がとれる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が受診をする際には「情報提供用紙」を作成している他、入院時には介護サマリーを作成し、提供している。入院中、必要時には職員が面会し、主治医やご家族様、関係機関職員等と早期退院に向けた話し合いを実施している。また、入院中の医療機関と協力し、退院前にご家族様と面談して、思いや不安を解消できるように対応している。主治医から退院に向けた説明がある際は、できるだけ施設職員も参加し、ご家族様、入居者様が安心した施設生活が送れるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけの医師と連携し、状態変化に応じた対応、受診時の情報をご家族様に提供している。入居契約時、グループホームで可能なケアやサービスについて、ご家族様に重度化の指針を含む説明をし、同意をいただいている。また、重度化・終末期にグループホーム内では困難なケア、サービスをご家族様や入居者様が希望する場合、他施設や医療機関への連絡調整を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が法人内での研修にて、応急手当や初期対応について学んでいる。また、施設内でも緊急時対応マニュアルを作成し、応急手当や初期対応について、定期的実践するように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人防災委員会や防火管理者が主体となり、年2回、夜間・日中想定避難訓練を実施し、全職員が対応について学ぶ機会を設けている。また、近隣施設への協力依頼等も検討し、災害対策を取っている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりの個人情報を把握し、それぞれの希望に沿った介護を行い、介助の際の声かけや対応等は、プライバシーを損なわない声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が自分の希望や思いを伝えられる環境作りを行い、意思表示を十分に行えない方に対しては、表情や行動から、その入居者様が何を望んでいるかを読み取り、選択肢を提示して自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の意思を尊重し、その人の希望に合わせたペースで支援をして、住み慣れた環境でその人らしい生活ができるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれの希望を尊重し、気温や状態に合わせてさり気なくサポートしており、身だしなみを整えて、好みの格好ができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は委託業者から配達されている。入居者様が食事を楽しむことができよう、月1回、お料理クラブを実施している。その際、入居者様から嗜好を確認し、季節の食材を取り入れたメニューを考えて提供している。また、お料理クラブでは、入居者様と職員と一緒に取り組めるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの身体状態を把握し、それぞれの食事量や水分量を観察している。職員間で脱水症についての勉強会を実施し、脱水症状や夏場の健康管理について、情報共有しながら対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後の口腔ケアを実施しており、個々の状態に合わせて職員が支援している。異常があれば歯科往診の検討をご家族様へ相談し、必要時には往診を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や声がけだけではなく、個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせた排泄援助を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタル表に排泄状況を記入する欄を設け、毎日観察している。水分を十分に摂っていただけるよう、その方の希望や嗜好、嚥下状態に合わせて飲み物を提供している。また、適度な運動も行えるよう、散歩や体操も無理のない範囲で促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日時は決めず、入居者様の希望に合わせて調整している。入浴時間も制限はしていないが、その方の状態に合わせて、身体に負担がかからないよう、入浴時間をみて体調確認の声がけを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクリエーションに体操や散歩を取り入れている他、家事活動等を行い、適度に身体を動かすことを促している。照明や物音にも十分に配慮し、安心して休んでいただける環境作りを行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけの医師からの薬剤情報に目を通し、申し送りやスタッフミーティングの際に、注意すべき内容の周知徹底を図っている。また、薬剤の情報で不明な点は、薬剤師や主治医、外来看護師に伺い、解決している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事活動(食器拭き、布巾畳み、洗濯干し、お料理)や入居者様個々の生活歴から、本人様が今できる事を支援している。計算ドリルや漢字の練習等の頭を使う事や、園芸、体操、歌等、身体を使う事等、日々、楽しみや気分転換ができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の状態や気分に合わせて、施設周辺の散歩に行っている。気軽に出かけられるよう、希望に沿った支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当グループホームでは金銭管理は行っていないため、行事や床屋等、金銭を使用する際は、その都度ご家族様へ連絡し、必要な額をご持参いただいている。支払いについては、本人様が支払いできるように支援し、お金を使うという社会性の維持ができるよう、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には他者様に迷惑がかからない時間帯であれば、自由に電話をかけられ、プライバシー保護のため、職員室内でご使用いただいている。手紙や年賀状は自筆でお出しできるように支援し、自署できない方は職員が代筆支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には入居者様が作成した季節の工作や飾り付けをし、ご家族様が来訪された時に楽しんでいただいている。また、食堂の他にソファを設置することで、リラックスできる空間を設けている。また、季節毎に室内温度や湿度に気を配り、ホーム内に温湿度計を設置して、日々、こまめにチェックし、入居者様の体調管理に努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂に通じるアルコーブにも寛げるスペースを設け、入居者様が休みたい時や、入居者様同士で話をしたい時等のためにセッティングしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドは施設の備え付けであるが、寝具やタンス、テーブル、椅子等は入居者様の馴染みの物を個々に準備していただいている。配置も入居者様やご家族様と一緒にいき、居心地良く過ごすことができる空間作りに努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各入居者様の残存機能や適応能力に応じて、居室の場所に配慮している。また、廊下左右に手摺りを付け、歩行がスムーズに行えるように配慮している。施設物品の高さや配置についても、必要物品は自力で取り出しが行える配置にするように努めている。		

2 目標達成計画

作成日: R6 年 10 月 5 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2.20.49	今年度から感染対策を徹底し、徐々に地域との交流やボランティアの受け入れをする予定であった。しかし、地域の施設や近隣者は感染対策に慎重になりボランティア受け入れや地域との繋がりが困難な状況である。	地域交流の継続と、ご家族様との関係性を深める。	・運営推進会議を通し、私達の感染対策の取り組みを伝達する。 ・地域交流以外でも、個別に意向を聞き、行きたい場所や行ってみたい事など個人に特化したプログラムを実施する。 ・季節を感じる行事を提案する。ご家族様にも行事の声かけをして参加を依頼する。また、お料理クラブでは、ボランティアとして参加して頂き、家族で充実した時間を過ごす。	12か月
2					か月
3					か月
4					か月
5					か月